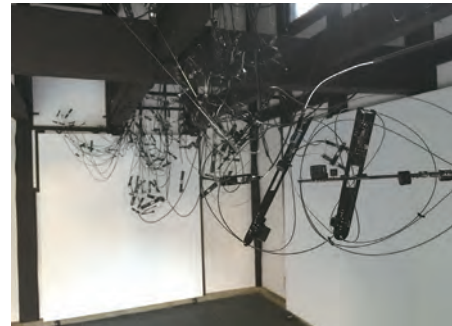


日本電通メディアアート支援寄金の助成決定

ITサービス事業などを行う大阪の企業、日本電通株式会社が、同社の創業70周年を記念し、2017年に「日本電通メディアアート支援寄金」を設立。関西に拠点を置くメディアアーティストの活動を支援していくこととなりました。その初年度となる2018年は、林智子さん、三原聡一郎さん、林勇気さん+SJQの3組のアーティストに総額100万円が助成されることが決まり、すでに助成を受けた活動が始まっています。

林智子さんは向き合う二つのiPhoneに目の表情を映し出し、その間でアイコンタクトが起きると周囲の光などが変化する作品《Phyche》を制作。2018年9月に台湾で開催された国際グループ展で発表しました。三原さんは、同年10月に京都の伝統的民家のスペース「瑞雲庵」で開催した、自ら企画した展覧会「空白より感得する展」で作品《moids ∞》を展示しました。この作品は、音に反応して青白いスパークを発生させる小さな装置を数百単位でつないだもので、古い蔵の中で微細な破裂音とともに青白い光

が明滅する幻想的な光景を生み出しました。また、林勇気さん+SJQは、観客がスマホなどから入力するデータをもとにAIが生成する無数の人工生命体のモデルを、フロアに置いた大型スクリーンに投影し、それらが成長する様子を見せる大掛かりな作品《遣り取りのゆくえ》を2019年3月に大阪市内で展示する予定です。日本電通メディアアート支援寄金の今後の展開が期待されます。



三原聡一郎+斎田一樹《moids ∞》

Photo : @三原聡一郎

ASK支援アーティストが関西経済同友会でパフォーマンスを披露

アーツサポート関西は、関西経済同友会の提言をもとに2014年に設立され、同会に所属する企業・個人から多くのご支援をいただけてきました。そこで、「支援先の見える化」を図り、2018年6月から同友会の月例幹事会の後に行われる放談会（懇親パーティー）にASKが支援してきたアーティストを招き、パフォーマンスを披露していただく取り組みを開始。

これまでにクラシックギタリストの山口莉奈さん、日本舞踊・上方舞 榎茂都（うめもと）流の榎茂都梅弥月（うめみづぎ）さん、世界的に活躍するヴァイオリニストの周防亮介さんにお越しいただきました。通常のコンサートでは幕が下りれば演者と観客は離れ離れとなりますが、この放談会では関西経済同友会会員のエグゼクティブの方々とは語りことができ、企業関係者はアーティストの苦労や最近の活

動、将来の夢などに熱心に耳を傾け、「この支援先の見える化によってアーティストを身近に感じることができた」と好評を博しました。



榎茂都梅弥月さん（三味線は菊央雄司さん）
(2018年10月23日)

2018年度 助成先のご紹介

志芸の会「キッズ狂言」（「八千代電設工業伝統芸能支援寄金」助成事業）

神戸を中心に活動する狂言師の会「志芸の会」は、能楽の普及・振興を目的に1999年に創設。毎年、小学生対象の「キッズ狂言」を開催しています。ASKは「八千代電設工業伝統芸能支援寄金」から50万円を助成しました。

「キッズ狂言」は、小学校へ出向いて5、6年生を対象に行う出前狂言から始まります。子供たちは狂言に出てくる昔の言葉や独特の仕草などをクイズ形式で学び、実際に狂言も鑑賞します。引き続き夏休み期間中には狂言の実演に向けたワークショップを5回にわたり開催。募集チラシを見て応募した約10人の子供たちは、狂言の台詞や発声方法、動き、相手との間合いの取り方などをプロの狂言師から教わりました。ワークショップは経験者と初心者に分かれて行いますが、驚くべきことに初心者の子供でもわずか5回のワークショップで台詞、発声、動きを覚え、大き

なホールに設けられた能舞台で見事に演じました。こうした地道な取り組みは、将来の能狂言の鑑賞者や演者の育成、さらにはその普及に貢献することにつながる極めて重要な支援です。



キッズ狂言会（神戸市灘区民ホール）

（写真提供：志芸の会）

◆ ハーベストコンサート「第73回&第74回 朝の光のクラシック」(「北俱樂部記念寄金」助成事業)

未来を予感させる若い演奏家たちの高い水準の演奏を、週末のすがすがしい朝の光とともに聴かせる「朝の光のクラシック」は、クラシック音楽を気軽に楽しんでいただくための1,000円という手頃な価格も功を奏し、毎回大好評。その開催は70回を超えました。通常は国内の演奏家が出演していますが、このたびASK「北俱樂部記念寄金」から45万円の助成を受け、海外で活躍する二人の若い女性演奏者を招いたコンサートが開催されました。

第73回コンサート(2018年7月16日/ザ・フェニックスホール)では、ウィーン在住のヴァイオリニスト・登坂理利子さんが演奏。モーツァルトやR.シュトラウスなどの名曲を超絶的なテクニックで弾きこなし、聴衆を魅了。

つづく第74回コンサート(同年9月7日/クラブ関西)には、BBC交響楽団のヴィオラ奏者・牧野葵美さんが登場。

英国の音大で学んだ牧野さんは、ピチカート奏法だけで演奏する19世紀末のデカダンの霧囲気が漂う曲を披露するなど、見事なテクニックで芸術の奥深さを伝えました。



登坂理利子さん



牧野葵美さん

◆ 一般社団法人タチヨナ「庄内つくるオンガク祭2018」(一般公募助成事業)

タチヨナは、アートを取り入れたワークショップを企画・考案し、地域のアートセンター、小学校、自治体などと連携して、子供たちに表現することの楽しさや感動を体験させ、生きる力を養う学びの場の創出に取り組んでいます。「庄内つくるオンガク祭」は、豊中市南部の庄内地域の子供たちを対象に、既存の楽器や譜面を使わず、ワークショップと演奏会を通して楽しく音楽を体験させるプロジェクトです。ASKは一般公募助成対象としてこの活動に50万円を助成しました。

このプロジェクトでは、音楽やアートの発想を体験することで、子供たちに新たな視点や意識を持ってもらうことをねらいとしています。アフリカン・パーカッション奏者のンコシさんとドラム奏者のPIKAさんの二人による計16回の連続ワークショップで、子供たちはオリジナルの楽器を

作り、作曲し、演奏を体験。その集大成となる大阪音楽大学でのコンサートでは、100人を超える来場者を前に自分たちの音楽を見事に演奏し、大きな拍手・喝采を浴びました。



庄内つくるオンガク祭2018(大阪音楽大学)

(写真提供: タチヨナ)

◆ ANEWAL Gallery レジデンスプログラム(一般公募助成事業)

ANEWAL Galleryは、京都の町屋を拠点に、アーティストやデザイナー、カメラマン、アートディレクターなどが集まり、美術・デザインを介した地域の文化資源の再発見や、アートと地域の人々との協働などを図ることを目的に2004年に設立されました。近年は、海外からアーティストを招聘し、京都の町屋で暮らして地域企業や寺社、伝統芸能などとの接点づくりへ積極的に力を注いでいます。アーティスト・イン・レジデンスには、現在三つの町屋が活動の拠点となっています。

ASKはこのプログラムに対して、2018年に一般公募助成対象事業として20万円を助成しました。同年4月11日~29日に開催されたフランス人アーティスト、ニコラ・オーヴレイさんの写真展「LISA」をはじめ、同年4月26日~5月13日に開催された国際的なグループ展「Multi Layered Identities」、同年10月5日~13日に開催された二人のフ

ランス人建築家を招いて行われた「町屋の教え展」など、京都の町屋を舞台に、国際的な広がりを地域に密着したプログラムの中に取り込んだ、大変興味深い活動を展開しています。



(写真提供: ANEWAL Gallery)